

## 課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面において子供が読書活動を行う上での課題

## 事業のねらい

- (1) 黙食を行う小学校の給食時間における朗読放送と関連図書の設置を実施することで読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。
- (2) 学童保育所や困難を抱える子供へのコミュニケーションを通じて小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。
- (3) 上記の取組に対し県がボランティアの養成や図書貸出の支援を行うことで、人材や、蔵書量に課題を抱える自治体でも取組が導入可能か検証

## 実施内容

### ①かつらぎ町立笠田小学校での取組 (かつらぎ町へ再委託)



【取組内容】  
かつらぎ町立笠田小学校全生徒  
(約250名)

【取組内容】  
ボランティアが作成した朗読録音CDを、黙食を行っている小学校の給食時間に流し、児童の読書への興味を誘った。また、同時に朗読図書を含む関連図書を学校へ貸出しを行い、読書につなげる。



### ②学童保育所や困難を抱える子供への取組 (那智勝浦町へ再委託)

【対象】  
那智勝浦町内の学童保育所4か所  
(小学校1～3年生約40名)  
困難を抱える子供(不登校)で青少年センターの学習指導に通う生徒、児童4名

【取組内容】  
興味関心を聞き取りながら、書籍・電子書籍の紹介などを行いながら、読書を促した。

### ②ボランティア養成及び図書貸出の支援 (和歌山県が実施)



上記、笠田小学校の朗読ボランティアの養成講座を実施。また不足する図書についても県立図書館から貸出を行った。

## 成果・課題

【成果】  
(笠田小学校での取組)  
アンケートでは大きな変化は見られなかったが、実施日の図書室利用が盛況であったことから、読書意欲の向上に一定の効果は確認できた。

【アンケートの結果】

1カ月の平均読書冊数	実施前	実施後
全体	5.2冊	5.2冊
2年生	5.9冊	5.9冊
3年生	5.1冊	5.0冊
4年生	5.4冊	5.8冊
5年生	5.0冊	5.2冊
6年生	4.2冊	3.7冊

(学童保育所での取組)  
大人と一緒に本を勧めあう時間を持つことにより、子供どうしで本を勧めあうようになった。

- 【課題】
- (笠田小学校での取組)
- 全校一斉放送のため、1年生～6年生が同じ作品の朗読を聞くことになり、学年に応じて作品を取り上げることができなかった。
  - 長期的な取組にするためにはさらにボランティアの養成が必要。
  - 複数校で実施するためには、学校へ貸出を行うための図書の確保が必要であり、県立図書館からの図書の支援がさらに必要である。

(学童保育所での取組)  
電子書籍は興味関心の対象となるが、低学年が使いこなすには大人の補助が必要である。